令和6年第1回日野市環境審議会 議事要旨録

■日時 令和6年(2024年)7月2日(火) 午前10:00～午後0:00

■場所 日野市防災情報センター 災害対策本部室

■出席者:審議委員(14名出席 1名欠席)

理事者1名

荻原 弘次(あいさつ後、公務のため退席)

事務局 7名

小平 裕明(環境共生部長)

中平 健二郎(環境政策課長)

川崎 文紀(環境政策課 課長補佐)

福嶋 健裕(環境政策課 環境政策係長)

市川 晃

高橋 夏果

大平 健司

傍聴者 3名

会議次第

1.開会

2.副市長挨拶

3.審議

日野市環境白書について

①日野市環境白書について説明

②質疑・意見交換

4.事務局より連絡

5.閉会

3.審議 日野市環境白書について

①日野市環境白書について説明

事務局)

環境白書(案)について説明

②質疑・意見交換

委員)

白書のP33。ここの生きものと浅川の水の量によって、生きものがどう成長するかとか、

生きていくか、そういったものの調査だと思いますが、令和 5 年度の取り組みの中で、専門職員が体調不良のため不在となり、水量調査を中止したとあります。水量調査にどの程度専門知識が必要かわからないのですけれど、どういう専門なのか、どういう水量調査なのか、これがまず 1 点。次に、浅川の流量測定結果。この中の測定日ですが、第 1 回から第 3 回までは 2017 年に実施している。2017 年度に 3 回実施しています。4～8 回までは、2018 年度に 4 回実施しています。2019 年度からは年 1 回。その次の川幅が何を指すのかがわからない。最大で 33.0m、一番低い時が 9.0m。その次の水深も 0～45 以上と何を指すかがわからない。その次の流速も、すごい差がある。流量についても、0.73 から 5.05 と相当の差がある。この表で意味しているものが全然わからない。一番下の八王子の下水処理場についても、よくわからない。このページをみて、全体的に意味が分からない。この表について説明していただきたい。

事務局)

先ほど、指標を浅川の流量から変更したとお伝えしましたが、今、ご指摘にありました通り、2 月であったり、5 月であったり、10 月であったり、時期がバラバラです。なので、時期によって、水深等も変わっています。そのデータについて、どう活用していくかが課題だと考えております。専門職員については、確認し、後ほど回答させていただきます。八王子市北野下水処理場についてですが、これまでは八王子市の市町村の下水処理場で処理し、浅川に処理した水を放流していました。これが流域下水道、都道府県の管轄に編入され、放流先が変更されました。これにより、浅川の水量が減少することになりました。令和 3 年に編入が終了し、そこから実際の水量が変わっております。専門職員について確認したところ、浅川流域市民フォーラムの事務局の方が、調査をされているという事です。この方が令和 5 年度、体調不良のため、不在となったため、調査ができませんでした。

委員)

追加ですが、表 3 のタイトルが、浅川の流量測定結果とありますが、こういったものをまとめて“流況”といいます。流量以外の情報も入っていますので、タイトルを“流況調査結果”としたほうがいいと思います。

事務局)

ありがとうございます。

委員)

測定についてですが、毎年、定点で実施していないのでしょうか。川幅や水深が毎年変わっているのですが。

事務局)

定数かどうかについて確認させていただき、後ほど回答させていただきます。

委員)

こういった不安定なデータを使用される場合、国交省の水資源データベースといったデータと照らし合わせて、活用を検討したらいいのではないかと思います。

事務局)

ありがとうございます。

委員)

まず、去年の審議会委員の質問・意見を反映させていただいて、分かりやすくなったと思います。P60に、こういった意見が出たと入れていただいて、ありがとうございます。P14ですが、私も去年、農の学校に入って、今、援農ボランティアで援農の活動をしています。P14に農の学校の取り組みのことが書いてあるのですが、令和5年度の課題に、「農の学校は、ここ数年募集定員に対し定員割れが続いており、募集方法等の工夫が必要」と書かれていますが、私の記憶では、4～5年前には、募集20名に対し、24人から25人くらいの応募があって、抽選するくらい多かった。昨年は、第一次募集では集まらず、追加募集をして18人が受講。16人が修了となっている。何人、農の学校を受講して、何人が卒業したか、表がないと応募者の経過が分からない。表を載せていただきたい。関連して、P66に、表16 援農人数が書かれています。これを見ても、援農人数が増えている、減っているしか分からないです。この援農人数は、2つの要素があって、農の学校に入って、何人の人が援農に入ったか。そして援農していたが、やめてしまった人が何人いるのか。この表16ではわからない。ここにNPO法人日野人・援農の会の資料があります。援農の会は、援農したい人が農の学校に入って、勉強する。そして、援農したいといった人が、みんな援農の会に入ります。そして援農を始めるのですが、援農の会の資料には、平成24年から令和3年までの入った人の数と退会した人の数がグラフで書いてあります。平成24年から平成28年までは入った人の数の方が多いです。退会された方もいます。それがだんだん、入会者が減って、退会者が増えていっています。令和2年、令和3年は入会者よりも退会者が多くなっています。これが続くと、援農される方がいなくなってしまうのでは、という心配があります。環境白書のP14にあるように、農の学校の定員割れが続いている、農の学校に入る人が減ることで、援農の会に入る人も減っている。だんだん先細っていったしまう。それが、表16 援農人数だけではわからない。入った人、やめた人の結果の人数しか分からないので、課題点が見えてこないと思う。例えば、P14に、ここ何年間かの入った人、やめた人の表を入れていただきたいと思います。P66にも、何人入って、何人やめたかわかるようなデータを入れていただきたい。そうすると課題が見えてくるのでは

ないかと思えます。農の学校の定員割れが続いているという大変厳しい問題だと思っている。去年も女性が多く、男性が少なかった。昔は男性の方が多かったと聞いている。農作業をしていると男手が欲しい時もある。そういった男女の数も入れることが出来たら、と思えます。昨年環境白書では、P14 の同じ項目に、学校給食の利用率が掲載されていた。どんどん地元野菜の利用率が増えていて、日野市が頑張っていると見えて、よかったです。今年環境白書には掲載されていない。掲載されていると嬉しい。

事務局)

農の学校についてですが、今年第 20 期を募集しており、今、追加募集をしているところでございます。日野市も都市農業を重要なポイントとして捉えて、今年、第 4 次日野市農業振興計画を策定しています。農の学校についてですが、定年延長の関係で、60 から 65 まで働く時代であることが一因と考えています。新しいことを始める前に、またお金を稼ぐとなってしまう。一方で、テレワーク等で若い方が入られている。たとえば 5 日間働く中で 1 日テレワーク、というときに農業を試みようなど、若い方が興味を持っているような現状がある。そういった現状を調査して、より農の学校に参加してもらうようにする、というのが課題かと考えております。また、表に関するご意見ありがとうございます。いただいた意見を踏まえ、随時修正していきたいと思えます。P67 に図 66「学校給食における日野産農産物の利用」として、場所を変更し、掲載しておりました。場所の案内、配置について改めて検討したいと思えます。

原因分析するためには、今、農の学校に来られている方も含めて、例えば男女比、年齢なども調査対象としていけば、傾向の変化もわかるようになるかもしれないと思えます。参考とさせていただきます。

委員)

先ほど質問があった P33 の件です。「浅川にすむ生きものの生息環境の変化を定量的に把握」とありますが、単純にみると水の量で生物の種類や量が分かるということによってしまう。果たして、そういう表現でいいのでしょうか。1~11 回の調査結果の意味が分からない数字で、この結果と生きものがどういう風にこのページで表現しようとしているのでしょうか。

事務局)

こちらのページでは、浅川の生きものの生息環境というところで表現をしております。生息環境という意味では水だけでなく、そこに生えている植物や天候、そういったところも大きくかかわってくるのですけれども、その中のデータの一つとして、量を把握するという意味で記載させていただいております。量についても、夏だったり、冬だったり、という時期や天候によっても、流量は大きく変わってまいりますので、こちらの表現につきまし

ては、いただいた意見を参考にさせていただいて、担当課と共に表現について検討させていただきます。

委員)

生きものの生息環境の変化は、分かるのですが、定量的に把握するということまで言い切れるのでしょうか。

事務局)

数値の面で実際に測定し、把握することで水深であったり、流速であったり、流量であったり、というものを調査しております。背景についても、皆様からいただいた意見のように課題が出てくると思います。このあたりも含めて、そもそも白書にどう記載すべきなのか、事業の組み立てについても再考いたします。

委員)

何点かあるのですが、形式的なところで、関連計画・目標という記載がある分野と、水分野ですとP20 のように考え方・目標となっています。生活環境分野では、根拠・目標(考え方)となっております。すべて統一すべきとは思いませんが、特に生活環境分野は環境規制・公害のため、根拠でどういう法令なのか、そのもとで目指される姿を書く、目標を書くというのはいいと思います。ただ、水分野は考え方として、「清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全」となっていて、その下に目標として、健全な水循環の構築となっています。目標と考え方の何が違うのかが分かりにくい。健全な水循環の構築があって、そのために何をするのか、という順番だと思うので、水分野の書き方は見直していただきたい。それから、具体的に目標について、定量的な数字が入っているものについては、後ろのデータ集でどの数値だと確認できる場所があればいいと思う。データ集を見てもどうなっているかわからないものもある。例えば、下水道接続率は後ろのデータ集で確認しようとしても載っていない。P23 に定量的なものとして、下水道処理人口普及率の目標が、97.1%。定量的なものとして、どうなっているかが同じページに載っている。接続率の目標 98.7%が、今どうなっているのか確認しようと思っても、このページにもないし、後ろのデータ集にもない。定量的な数値があるものについては、今どうなっているのか、そのページで分かるようにしていただく必要があると思う。

そのための白書でもあるので、PDCAを回していく。チェックをここでして、アクションにつなげていくためのツールなので、数値に照らしての現況がここで確認できるようにしたほうが良いと思います。

3 点目、P27、生きもの分野の代表的なデータとして、アライグマ・ハクビシンの捕獲件数があるのですが、これが代表的なデータとしていいのかと思います。難しいと思うのですが、生物多様性地域戦略はこれだけではないと思うので、出すにしても複数指標、データ

を組み合わせるのか、もう少し前向きに生物多様性戦略がとらえていっているような認識できるような指標が望ましいかと思います。

P75、水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合、2023年70.3%となっているのですが、P19の代表的なデータで、水辺に親しみを感じる市民が73.0%となっている。どちらが正しいのか確認していただきたい。

事務局)

1点目の水分野と生活環境分野についてですが、P5の一番下の生活環境分野、こちらが生活環境のなかで起きたことに対してどう対処していくのかという部分になっていくので、計画等ではなく、法令に基づいた実施になります。水分野についてですが、本来であれば市として水に関する計画を策定して、実施していく分野になります。ただ、策定できていないのが、現状になります。現在は、条例に基づいて実行しております。こちらの計画については、市としても必要性を感じているところですので、策定に向けて進めていきたいと考えております。

生物多様性の指標についてですが、なかなか難しく、ひの生きものプランについて、指標は書かれているものの、具体的な数値については触れていない。生きものは、水とみどりと密接に結びついており、環境によって、日野らしい生物多様性が生まれるということになっていることから切り離せないというところで、指標、数値についてどう表現していくのか悩ましく、いただいた意見を踏まえて、複数指標も含めて検討していきたいと思えます。代表的なデータについては、確認し、修正させていただきます。

データ集の成り立ちについてですが、第2次日野市環境基本計画に基づく環境白書の際に存在していた指標、こちらをまとめたのがデータ集の背景でございます。元々、各章にあったデータを移動したという部分もありますので、それぞれの章にデータがあるから書かないという訳ではなく、改めて再掲という形でも市民の皆様に見やすい、比較しやすいデータを重視したいと思えます。下水道のデータについても、後ろのデータ集に加えたいと思えます。

委員)

水分野の考え方にある、清流保全条例の改定は済んでいるのでしょうか？

事務局)

令和4年4月1日に、清流保全条例が施行されております。そこで施行規則等も一部改正しております。

委員)

生活環境分野とあわせて、根拠を清流保全条例、目標を健全な水循環の構築とするとい
いのではないのでしょうか。

事務局)

ありがとうございます。

委員)

P77 のごみ分野、新聞に掲載されていた情報ですと、2022 年度の人口 10 万人以上
50 万人未満の市町村で 1 人 1 日当たりのごみ排出量が 600.5g とありました。図 72
の情報ですと、2022 年度に 596g。新聞の情報と、この表で意味が違うのかもしれませ
んが、教えていただきたい。

多摩地域最小ごみ排出量と、日野市のごみ排出量の差が小さいですが、町なのか、村なの
かわからないのですが、これについても教えてください。

事務局)

ごみのカウントの定義によって変わるところではあるのですが、説明がないと、ただ数字
が違うとなってしまいますので、説明を注釈で追加したいと思います。

多摩地域最小ごみ排出量についても、2014 年度では、だいぶ差があったものが、多摩地
域ごみ最小排出量に近づいている、というものを表現したものである、とご理解いただけ
ればと思います。

委員)

新聞で、600.5g と掲載されていますので、はっきりと分かるようにしていただければと
思います。市民の方が見たときに迷ってしまいますので。

事務局)

ありがとうございます。

委員)

生活環境分野について、何点が質問をさせていただきます。

P45、発生主義の側面があります、と書かれておりますが、発生主義って聞きなれない言
葉ですけれども、これはどういうニュアンスで記載されているのでしょうか。

次に、苦情件数についてです。2023 年度は 343 件。2020 年のデータが無いのですが、
2020 年は 200 件くらいだったと思います。徐々に増えている、ということで検討課題
である、と昨年度の白書に載っていたのですが、以前よりも全体として苦情件数が増えて

います。これは何を意味しているのでしょうか。またそれに対して、どういう対応をしたのでしょうか。一般的に環境白書では、苦情や相談の件数だけでなく、未然に防ぐという意味でも、それをどう解決したのか、という記載も大事だと思います。P82、83 で事例が紹介されておりますが、紛争になっているものもあるかと思えます。未然防止のための、環境アセスメントもあれば、公害審査会にかかったものもあるかと思えます。確か、今年の3月に、国の公害等調整委員会で棄却された事例などもあるかと思えますが、日野で起こったことに対して、何らかの記述をしたほうがいいのではないかと思います。環境アセスメントも対象になったら、どこで何が起こったのか、いわゆるADR、裁判などにかげずに、行政的に調整して解決するという手法も、環境白書の中で、こういう解決の仕方もあるという事例を示すとともに、ページを割かなくてもいいと思いますが、記述をしたほうがいいと思います。

最後に、生活環境分野の有機フッ素化合物、PFASなどに皆さん、大変関心を持っていると思います。血中濃度などが高いなどもありました。井戸水で暫定目標値を上回っているというのがあったとも聞いています。日常的に、飲料水として井戸水を使っていない、というところでも、緊急時に、井戸水を使うとすれば、何らかの対策・把握が必要ではないかと議論されています。行政の姿勢を示すためには、そういう情報も掲載をしておいた方がいいのでは、と思います。東京都に任せている、東京都に全て調査権限があるという事であるかもしれませんが、市民に示す白書のデータでも入れたほうが良いのでは、と思います。

事務局)

生活環境分野の発生主義は、発生した問題に対応していくため、連絡をいただいてからの対応になります。代表的なデータというところで、昨年の審議会でも質問がありましたが、苦情件数が増えております。昨年に関しては、飛行機の関係で、騒音の問い合わせが多くなりました。高幡不動でヘリコプターが飛んでいる、これをどうにかしてほしいといった連絡が集中的に入り、昨年以上に増えております。今年度は連絡が入っていないので、若干減っております。直近8年平均179件と入っておりますが、以前は統計の方法が定まっていなかったため、この表現については内部で検討しております。代表的なデータの表記の仕方については、変更を予定しております。

PFAS、PFOAについてですが、市役所としてデータをとっておらず、水道に関しては東京都の事務となります。そのため、市役所としてお示しできるデータは現在ない状況です。

PFAS、PFOA調査については、東京都と連携し、地下水概況調査を進めているところです。その数値に関しては、東京都のHPで公表していただいておりますが、近隣の自治体で独自調査を始めているところもありますので、その動向を見ながら、調査を実施できればと考えております。

委員)

東京都で公表されているデータを引用して掲載するといいいのではないのでしょうか。

事務局)

検討させていただきます。

委員)

先ほどお話がありましたように、他市では独自調査を行われているところもあります。東京都が、日野市で行った調査の結果は、日野市の環境白書にも載せていいと思います。市民にとっては関心ごとだと思しますので、市民にとって必要な情報は掲載したほうが関心に沿うのかなと思います。

事務局)

引用掲載についても、確認し、検討させていただきます。

委員)

P8、9 ですが、環境に優しいものとして、グリーンカーテンなどが挙げられていますが、他にも環境にいいカーテンで年間数万円出費を抑えることが出来る物や、エネルギー消費を抑えることが出来るものもあります。皆さんがそうしたものを活用してくれば、結果にCO₂や皆さんの活動に寄与することもあると思います。そういうことも取り組みとして、小学校やアナウンスなどにも取り組んでいったほうがいいのではないかと思います。これが1点目です。P13、P17についてですが、目標が同じです。何が違うのかと思ったら、里山文化の継承と協働による活動の仕組みづくりなどで違いますね。課題の部分で人手不足ならば、小学校で体験学習を行うなど意識を高める取り組みを行ってもいいのではないかと。両方の取り組みで、市として、ボランティアに投げっぱなしになっているのか、と疑問に思いました。P20 で課題無しとなっていますが、課題がないという事はクリアしたのかと思いました。しかし、色々なところを確認すると、成果を広めるということで、P24 でツアーに取り組んでいるとあります。そういった周辺を大切にする、観光の資源にすると考えるならば、水の豊かな日野、水に親しめるというアピール、もしくは広告を実施していかなければいけない、というのが課題ではないかと思います。ただ調べるのでなく、活用を考えていく必要があるのではないかと。それがP26 の浅川の連携にもつなげるなどができるのではないかと。実行計画の目標や課題が被っている、散発になっていると感じます。行きつく回答は同じになっている、そういうものを見直しが必要なのではないかと。ただ注意してほしいのは、P32 の課題で、「児童が十分理解するに至らなかった」というのは、児童が悪いと捉えられかねない。教育を行う我々にすべて責任がある。児童が悪いわけでも、理解することが悪いわけでもない。ここで課題として書くのは、望ましくないと思います。

ここは変更したほうが良いと思います。P46 のたばこの調査をされていますが、日野市には多くの方が通勤・通学されています。その場合に、日野市外の方がたばこを吸われていることがあるかもしれません。日野市民、というだけでなく、他の市の方が対象になっているかもしれないと感じた。このアンケートでは、そのあたりを調査されているのでしょうか。暮らしている方が吸われていない可能性もあるかなと感じました。P81 生ごみリサイクルステッカーについてですが、世帯に配られていることもいいと思いますが、正直、学生たちはペットボトルを分別して入れている。そういう世代は意識が高い。リサイクルを広めるよりも、先ほどのたばこなどがNGです等を、駅のホームや近場に貼ってもらい、注意する。環境に優しい環境づくりを進める、啓発するような取り組みはやられているのでしょうか。

事務局)

P9 のグリーンカーテンの取り組みですが、グリーンカーテン以外の効果的な取り組みを周知できておりません。下にありますデコ活という取り組みを環境省が始めておりますので、ここのツールを何か活用できないか模索しております。ご意見を参考にさせていただきます。P13 ボランティア団体のところですが、書いてありますようにボランティア団体の高齢化や人手不足、市としてはボランティア保険や物資の支給などを行っているところですが、なによりも人が足りない、お金が足りない、時間が足りない。しかし保全すべき林はたくさんあるというところで、現場ともども大変苦労していると聞いております。費用対効果も含め、どう保全していくのかというときに、有志の方、ボランティアの方の力は非常に大きい。これをどう支援していくのかは課題だと思っています。子供たちのかかわりについては、環境に関する学習については聞いておりますが、直接のかかわりについては聞いておりませんので、もしあれば記載してもらおうようにいたします。P20 の課題無しについては、おっしゃる通りです。水分野の計画がないため、本来であればここを切り離さないで各取り組みを関連付けて、データをとって何に使うのかができていなければいけない。次を考えられるような記載にしたいと思います。P32 についてですが、おっしゃるとおり、我々がきちんと伝えるべきことがあった。きちんと子供たちに伝わるように説明すべき義務が我々にあると思います。我々がきちんと伝えるべきという表現に変更したいと思います。ご指摘ありがとうございます。P81 生ごみリサイクルステッカーについてですが、環境分野、特にSDGsについては、我々大人よりも、そうした教育を受けた子供たちの方が分かっている。高校生、大学生とかかかわっている中で、子供たちにとっては当たり前の話で、そこからどうしていくのか。どう我々と活動してもらうか、ということにもっていけるかが課題だと考えております。いただいたご意見を参考にさせていただきます。喫煙のアンケート調査についてですが、市民と日野市を利用する方を対象にインターネットで調査をさせていただいております。市内と市外で分けて調査をしていないため、何割が市内で、何割が市外かわからないのですが、日野市を利用している方でアンケートを取

っております。

委員)

路上喫煙についてですが、前回の審議会で、電子たばこは対象とするとありましたが、最終的には加熱式たばこが対象。ニコチンを含まない電子たばこは対象外でよろしいのでしょうか。

事務局)

はい、そうです。

委員)

前回の審議会で話し合ったことがどうなったかを報告していただけると嬉しいです。

委員)

みどり分野P11、目標を2023年度達成しています。それを書き続けるのは良くないと思います。市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出すると書かれていますが、33%をいつまでなのか、目標の数字があるが時限がないというのは残念。P49 図56は画像を直接入れるのではなく、グラフを埋め込むなど修正したほうが良いと思います。図51の注釈部分の文字の大きさがおかしいので修正したほうが良いと思います。課題無し、というのは今のところ、課題にたどり着けていないということだと思いますので、再度検討をお願いします。

委員)

課題の書き方は気を付けたほうが良いと思います。P21、P29の課題の書き方も修正したほうが良いと思います。むしろ、治水の理解と環境構造の醸成が課題と書いてもよかったですと思います。行政としてなにをすべきなのか、という表現にしたほうが良いと思います。

委員)

P23 下水処理人口普及率がありますが、他の自治体だと浄化槽の補助を出しているところもあります。下水処理人口を100%にするという目標でも良いと思いますが、汲み取りをなくすというやり方もあると思います。

P22についてですが、ごみというよりもそれを洗った水が問題になるのかなと思います。P33 専門職員ですが、市として科学職をとられているのかと思ったのですが、頼んでいるという事でしたので、書き方を修正したほうが良いと思います。

P35 外来種の設定についてですが、アライグマ・ハクビシンが外来種なので、駆除して守るべきものを指標が入れるのではないかと思います。これだと、外来種が増えました。増

えて困っていますと見えてしまうので、駆除して守るべきものを指標とするというのを検討していただければ。

事務局)

P35については、この施策の方向が、人と生き物が共生するための外来種・鳥獣害対策というところなので、アライグマ・ハクビシンの捕獲件数で表現しております。代表的なデータをどうするということについては、駆除してどこを守るのかという視点も含めて、他の考え方がないか考えていきます。

P22 については、近隣住民の方からの意見もあります。ふれあい橋の下が格好のバーベキュースポットになっております。バーベキューしないように草を刈らないでいると治安の問題があります。問題に対し、看板の設置をしているところです。確かに、ごみを洗った水の問題もあると思いますので、主管課と検討していきます。P33 流量調査については、修正いたします。

P23 について、再度お願いしてよろしいでしょうか。

委員)

自治体によっては、残りを浄化槽にするという書き方で、浄化槽の補助をしているところもある。普及率 100%を優先するなら、いらないと思います。下水へただ流すということにならない、という方法もあるのかと思います。

事務局)

日野市も浄化槽に対する補助を実施しております。そのあたりも含めて、主管課と確認いたします。

会長)

先ほど出していただいた意見を、事務局で4つにまとめていただきました。

- 1 各分野、施策の方向、データが相互に連動し、関係していることを踏まえ、整合性を確認すること。
 - 2 各章のデータについて、市民が比較しやすいよう、データ集に掲載すること。
 - 3 取り組み、成果、課題について、市の事業である視点から記載すること。
 - 4 事業に関して、課題をきちんと洗い出し、記載をすること。
- 以上、4点の意見が出ました。よろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

異議なしという事で、この意見を日野市環境白書に反映していただきたいと思います。
それでは、以上で本日の審議事項を終了いたします。